



SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

週報 No. 12

2008.9.24 (No.2519)

第2560地区ガバナー／馬場信彦
 会長／中村和彦
 会長エレクト／菊池 渉(クラブ奉仕A)
 副会長／樺山 仁(クラブ奉仕B)
 幹事／石月良典
 S A A／明田川賢一
 会計／杉山幸英

例会日／毎週水曜日12:30～
 例会場及び事務局／
 三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
 例会場／TEL 34-3311
 事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
 http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
 (〃はshiftを押しながら“へ”のキーを
 押ししてください)

■本日の出席会員数:59名中49名
 ■先々週出席率:87.72%

【ゲスト】

- ・国際ロータリー第2560地区ガバナー
馬場信彦さん
- ・第4分区アシスタントガバナー
古井辰禧さん
- ・国際ロータリー第2560地区幹事
韭澤喜一郎さん

【ヴィジター】

三条ローターアクトより
 ・中野直人さん、川口直人さん

【先週のメイクアップ】

- [9.18] 燕RCへ
 ・渡邊喜彦さん、西川文夫さん
- [9.18] 三条東RCへ
 ・渡邊喜彦さん、西川文夫さん
 ・武田真二さん、加藤紋次郎さん
 ・熊倉昌平さん、丸山行彦さん
- [9.17] 新井RCへ
 ・加藤紋次郎さん
- [9.23] 三条ローターアクトクリーン作戦へ
 ・石塚欣司さん、石月良典さん
 ・伊藤寛一さん、樺山 仁さん
 ・小林敬典さん、杉山幸英さん
 ・中村和彦さん、平原信行さん
 ・渡辺勝利さん 以上9名



「夢をかたちに」

2008～2009年度国際ロータリーのテーマ



ヒガンバナ

会長挨拶

中村和彦 会長



越後を経済大国とした上杉謙信

直江兼統の生まれは南魚沼市の坂戸城下。子どもの頃から可愛い少年で、後々ハンサムに。背も高く、しゃべれば演説も上手い、カリスマ性を持った人物。

これに対し、主君の景勝は正反対。兼統よりも五歳年上だが、背も低く、顔もでかいずんぐりむっくりの体型。愛嬌もなく、ほとんどしゃべらず、冗談を言ってもクスリとも笑わない、「笑わぬ殿様」と言われていた。

正反対の二人だがこのコンビが非常にうまくいった。

戦国時代は能力のある家臣は、下克上で自分が上に立つという時代。しかし兼統は景勝に使え続けた。

兼統は「謙信学校」というものに入門する。

これは、謙信が若い青年を集めて酒を飲みながら、武将の心構えや戦い方を語るというもの。智謀の将と言われるくらいで、兼統はどんどん謙信から教えを吸収し、謙信の一番弟子と言われるまでになる。

戦国時代というのは非常に生きにくい時代。

残るのは20%ほどで、後の80%は滅ぶ厳しい時代。

戦国時代は百年にわたる内乱の時代で、あちこちで紛争が起こっていた。農民は、田畑を耕しに行くのに、鋤鍬は当然、腰には刀を下げている。内乱が続くと、流通がストップして、経済活動は停滞する。そして何より人心が荒廃する。

謙信は「義」をテーマとして掲げた。「義」とは私利私欲を捨て、人の信義を大切に、公の心をもって事にあたるということ。それを言うだけでなく、実行した。

謙信の行った経済政策は三つ。

一つは新田の開発。用水を整え、石高を増やした。

二つ目は、金銀山の開発。戦国時代の最大の金山は、岩船郡の高根金山。魚沼にも上田銀山があり、佐渡が上杉領になってからは佐渡金山。そこを開発し、景勝の頃には日本の資産の6割が上杉領だった。

そして三つ目が殖産工業の推進。謙信はアオソの栽培を大々的に行っている。アオソは高級な麻織物で越後上布の原料。京都や大阪方面の商人に大変売れた。

この謙信が行った経済政策によって、越後は戦国群雄第一と言われる経済大国となった。

幹事報告

石月良典 幹事

◎NPO法人ネットワークみどり緑より、三燕みどりの森(須頃郷第2号公園)完成記念植樹祭、並びに祝賀会のご案内が届いております。

とき 10月13日(祝・月) AM9:00~12:00

ところ 三条燕みどりの森公園

※雨天決行予定です。

◎馬場ガバナー事務所よりロータリーレート変更のご案内が届いております。

1ドル108円(現行) → 10月1日より 106円

ニコニコBOX

馬場信彦ガバナー

本日は三条RCの公式訪問です。

よろしくお祝い致します。

古井辰禧アシスタントガバナー

本日はよろしくお祝い致します。

中村和彦さん

馬場ガバナー、今日は一日指導、よろしくお祝いします。

昨日はRACクリーン清掃、ご苦勞様でした。

石月良典さん

馬場ガバナー、はありがとうございます。よろしくお祝い致します。

渡邊喜彦さん

今度はガバナー公式訪問、ご苦勞様です。馬場ガバナー年度の無事成功と勞をねぎらって。

樺山 仁さん

味覚の秋、芸術の秋、スポーツの秋、そしてロータリーの秋です。馬場ガバナーに感謝して。

菊池 渉さん

馬場ガバナーの公式訪問を歓迎致します。今日一日、勉強させていただきます。

藤田紘一さん

馬場ガバナーの公式訪問を歓迎致します。

会田二郎さん、石橋育於さん、渋谷健一さん、高橋 司さん、荻根澤隆雄さん、斎藤弘文さん、日戸平太さん、近藤雄介さん、松永一義さん、杉山幸英さん、山田富義さん、成田秀雄さん、五十嵐晋三さん、五十嵐寿一さん、若槻八十彦さん、小出子恵出さん、梶山 肇さん、平原信行さん、外山雅也さん、熊倉昌平さん、佐野勝榮さん、丸山行彦さん、金子俊郎さん、船越正夫さん、小越憲泰さん、五十嵐昭一さん、明田川賢一さん、西川文夫さん、石塚欣司さん、渡辺勝利さん、馬場ガバナー、大変ご苦勞様です。歓迎申し上げます。よろしくお祝い致します。

9月24日分 ￥45,000

今年度累計 ￥442,000

10月のお祝い

◎会員誕生祝

8日 渡邊喜彦さん
24日 佐野勝榮さん
28日 石月良典さん
29日 小宮好智さん



◎夫人誕生祝

3日 五十嵐幸子さん(晋三さん)
13日 平沼淳子さん(潤一さん)
21日 会田陽子さん(二郎さん)

◎結婚記念祝

2日 石橋育於さん(久子さん)
3日 五十嵐晋三さん(幸子さん)
10日 藤田紘一さん(幸子さん)
10日 五十嵐寿一さん(史子さん)
10日 高橋 司さん(恵子さん)
10日 田中 仁さん(真弓さん)
15日 浅野金治さん(ちか子さん)
15日 渡辺勝利さん(美代さん)
22日 斎藤真澄さん(千也子さん)
22日 松永一義さん(シゲミさん)
25日 熊倉昌平さん(恵子さん)

◎100%出席賞

38年 熊倉昌平さん
1年 西川文夫さん

馬場ガバナー公式訪問

講話

第2560地区ガバナー 馬場信彦 様



今日は用意いたしましたテーマは「人生は2のN乗で拓かれる」というテーマに致しました。

皆さんのお手元に三枚の資料がいつていると思えますが一枚は個人別調査票、二枚目は親の系統図、それから家計図の書き方。三枚目が家計図を実際に書ける紙です。

これは私が渡邊喜彦さんと知り合って青年会議所の理事長をしている時に岩室の「わだちそう」でトラック協会が持っている旅館があるんです。そこで二泊三日で毎朝4時か5時に起こされて太陽に向かって挨拶する、この挨拶というのは相手に息をかけちゃいけない。というものでさんそくの礼というもので頭を下げて吸いながら上げる。吐きながら頭を上げると私の息が食事をした後だと食べ物の臭いが相手にかかってしまうのです。

掛からないような挨拶の仕方をまず最初に教わりました。さっぱりその通りきちんとやってないので理屈だけは分かるのですけど。

そんな事を冒頭にお話して渡邊さんに感謝申し上げます。

私達の誕生日の日というのは大変お母さんが苦しんだ日だと言われていまして、詠み人知らずの歌なのですが“諸人よ思い知れかし己が身の誕生日は母苦難の日”と言う和歌があるんです。

自分たちが生まれた日というのはお母さんが大変苦しんだ日だよと歌っているのです。

高田好胤さんという奈良薬師寺の管長をおやりになった方がある雑誌でこの歌を誰が詠んだかわからない歌だけれど非常に意味の有る歌だから、自分達がこの世に生まれてきたというのは、生まれてきた日というのはお母さんが大変苦しんだ日だという事を歌っているんです。

私はどういふふうに苦しいというのかは経験しておりませんので、男性ですから分かりませんがそういう歌です。

それで誕生日というのはこういうふうにとまとめたのです。

皆さんの誕生日はお母さんに感謝する日と位置づけてみました。

それでお母さんにだけ感謝しても子供は生まれませんのでお父さんにも一緒に感謝する日と付け加えたいのですけど、やはりお母さんに感謝する。

特に男の子というのはそういうのが多いようです。そんな感じがします。

“諸人よ思い知れかし己が身の誕生日は母苦難の日”しつこい様ですが覚えてください。

人間の寿命というのはいま人生80年と言われていきます。これはどこから出てきてるかと言う事なんですけど、平成18年の簡易生命表によりますと、これはインターネットで人間の寿命と検索しますと、ぱっと出てくるのですが男性が79歳で女性が85.81歳だそうであります。ですからおそらくこの辺から人生80年。ごく最近まで人生50年と言ったんですけども昭和に入ってからも言っていたのですが、戦後食糧事情が良くなってからでしょうかこういう形で長生きが出来る様になったという事でございます。

私第2回目の公式訪問に新潟クラブに行きました。そうしたら元第四銀行頭取で鈴木正二さんという方がおられまして、歳を聞いてびっくりしたのですが95歳なんです。まだ矍鑠としておられまして、ちょっと耳が遠くなっておられましたが私の卓話は“越後三条良寛の道”と云って三条と良寛様がいかに因縁があったか、三条の人たちがいかに良寛様を押し上げて今日の良寛像というものを創ってあげたかということをお話したら終わった途端に私のとこまで飛んで来られまして、手を出されて頑張ってくださいと言われて帰られました。僕がびっくりしておりましたらそんなのでびっくりする必要はないよと言われたのです。

小林力三さんて言うコバリキの社長だった方が100歳直前にして亡くなられたのですけど、この方も生涯現役で3日とか4日前まで例会に来ておられたのだそうです。私もいい加減に聞いていたのですが一週間より短かったです。病院に入院するという事も無くきちんと例会に出られたということです。

その方がロータリーの出席率100%を50年続けたとの話を聞いた時に人事ながらスゴイ事だと思っ、二分の一世紀ですから、そういう風に感じていました。

偶々私三条市の社会教育委員というのを一期だけやった事があるのですが、その時も県下の社会教育委員の連合会の会長をされておられまして、おそらく90歳以上だったと思うのですが矍鑠として総会を仕切っておられました。

勿論総会の挨拶もご立派でしたしびっくりしていました。

ですから三条クラブでもご年配の人は多々おありになるんだと思います。渋谷会員さんが一番高齢だと聞いておりますけれども、是非自分の年齢を恥ずかしがるとか自分の体の都合で物理的に出れない場合はこれは止むを得ませんけれども本当に出れる間は、やっぱりこういう所に来られて大勢の仲間と一週間に一回語り合っ、すねまた元気を貰って帰る。そういう事って人生において大事な事なんだなって感じています。

それで人間が生きて来たってどういう事かという、何万年も生き続けてきたと言うと、何万年も一人の人間が生き続けられませんかから、これは子供を

生み育てるという事を何千回何万回と続けてきて、食べる事と人間が生まれるという事は人間の歴史が続いてきた一番大事なことでありまして、食べる事が無くなれば生きられませんし、子供が生まれなければ人類は絶滅いたします。

そういう因果関係になると言う事も改めてご確認頂きたいと思います。

そしてもっと大事な事は男女二人から自分たちの人生は始まっているんだと、生かされたんだって事でしょうか。ですから生まれた国とか生まれた時代、それからアメリカ人に生まれたいとかイギリス人に生まれたいとかどこの国人でもいいんですが自分たちは選べません。

両親から生まれてきた以上は、裸で生まれてきて全部引き受けて世の中に生きていかなければならない使命という宿命を貰います。でもその人でなければ果たせない使命を貰って生まれてくるといいます。

結婚するって大事な事なんだそうで、いまさらここで後悔しても、私が後悔するか家内の方がもっと後悔するかはまあ別にしまして結婚と言うのは悲喜転換、悲しみを喜びに変えることが結婚だと言われています。つまり家が古い家であればあるほどいろんな澁みと言いますかいろんな病気と言いますか不幸なことがいっぱい積み重なっていきます。

それを払うには新しい血、つまり新しい結婚をする度にそういうものを払う結果になるような結婚をしなければならぬ。そういう事を言われています。

結婚というものは悲喜転換になる悲しみが喜びになるようなものだという事でありまして。これはまた後に話をしてみたいと思います。

それからお母さんとお父さんの語源について。

「お母さん」と「お父さん」の語源についてですが、日本人は、お母さんのことを「太陽」と呼んだと言われております。男は自分の「カミさん」のことを、「日」プラス「身」で「日身(カミ)さん」と呼んだのだそうです。「日(カ)」というのは「太陽」のことを指していて、古い言葉で「カカ」、もっと古い言葉で「カアカ」さらに古い言葉で「カッカ」と言って、太陽が燃えている様子を表す擬態語であったといわれています。「身」は体のことを指しています。

父親のことは「お父さん」と呼びますが、「お父さん」というのは、母親を外敵から守ったり、食べ物を取って来たりしてくれますので、「お母さん」から見たら、「尊い人」だということから「トウト」という語源が出来、歌舞伎などでいう「かか様」「とと様」から「お父さん」となったといわれています。

外国人から「日本人って何ですか？」というふうに分かることがあります。このことについてお話をします。「生きる」という文字は、「いき」と「る」に分解できます。「いき」は「呼吸」することで、「る」は、それを自然に続けることだそうです。そうすることで生きているのだそうです。

「呼吸の力」は「心臓の力」。「心臓の力」は、「太陽電池の力」と言いまして、人間には、太陽の光を浴びることによって、体の中に蓄電をする装置があるのだそうです。その太陽電池の力で、心臓が止まることなく動いているから、生かされてるんだということだそうです。ようするに私たちは、太陽によって生かされているのだと、こういう事だそうです。

この「命の源は、太陽である」ということは、二千万年も前から、私たちの祖先は気がついていたのだということだそうです。古代の日本人は、太陽のことを「おかげ様」とも言っていたのだそうです。

「日本人とは何か？」と問われたら、「私たちの命の原因が太陽だと知り、その太陽に感謝して、太陽のように丸く明るく、豊かに元気に生きる。これが日本人である。」という風に答えたらどうでしょうか。

次に、お手元に配ってあります、「親たちの系統図」の資料を見てください。一番下が自分です。自分が生まれるためには、2人の親がいます。2人の親が生まれるには、4人の親がいます。4人の親が生まれるには、8人の親がいます。そこで、10代では何人の親がいるのでしょうか？答えは、2の10乗になります。

10代ですと、1,024人の親がいないと、皆さんはここにいません。20代になると、104万8,576人。21代では210万人に近い数になります。

それだけの親がいないと、皆さんはここにいないのです。ですから、今ここにいるということ、両親や先祖に、感謝しても感謝し尽くせない位の喜びをいただいてきたんだという事を改めて考えていただきたいと思います。

私たちの体の中には、先祖から受け継いだものが、遺伝子という形で網の目のように内在しています。孫悟空が逃げようと思っても、お釈迦様の手のひらの中から逃げ出せないように、私たちも先祖からは逃げられないのです。

3代にわたって家系図を書きますと、自分の長所短所が分かります。長所は「個性」といいます。短所は「性癖」といいます。この2つは自分の中に同居しています。それで、この家系図に情報をいろいろと書き入れますと、例えばどんな病気にかかりやすいだとか分かります。癌系統か、心臓病系統か、脳溢血系統か、この三大病の中のどの系統かが分かります。

まだまだお話をしたかったのですが、時間になりました。最近では、親子の絆を断ち切るようなニュースが多くなりましたが、日本人の持つ「思いやり」や「やさしさ」を子供たちに伝えていくことは、ロータリアンの大きな使命ではないかと最近特に感じています。

地域のオピニオンリーダーであるロータリアンの皆さんには、このような親子の絆を絶つような事件が起こらないように、子供や青少年に光を当てて、地道な活動をやっていただきたいと思い、お話をさせていただきました。

今日はありがとうございました。

公式訪問



各委員長さんより報告がありました。

懇親会のようす



次週例会 10月8日 外部卓話
地区社会奉仕委員長 鈴木重吉 様

次々週例会 10月15日 外部卓話 水科江梨子 様

